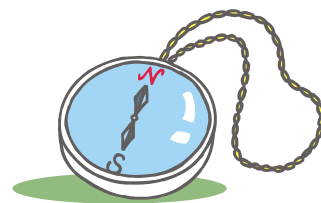


羅 針 盤



第 9 号 令和8年6月15日（月）

◆ 3つの「や」

一日一日を、自分自身の持てる全力を出し切って過ごすこと、それはとても素晴らしいことではありますが、なかなか現実には上手くいかないこともたくさんあるはず。それでも、時には全力を出し切り「やりきった」という思いをもつことはとても大切なことです。「やりきって良かった」と思える達成感が、人を大きく成長させていく原動力となるからです。何事にも自ら進んで前向きに取り組む「やる気」、ひたむきに諦めず努力し続けやり遂げようとする「やりぬく力」、人権を尊重しながら、誰に対しても思いやりの気持ちをもつ「やさしさ」、といった「やる気」、「やりぬく力」、「やさしさ」の3つの「や」は、学校生活の中で多くの学びを得るための大切なキーワードではないでしょうか。今年の4月26日に英国で行われたロンドンマラソンで、ケニアのセバスチャン・サウエ選手が人類初の2時間切りとなる1時間59分30秒という世界新記録で優勝したことは、記憶に新しい歴史的な出来事でしょう。生徒の皆さんの中には、長距離走が得意な人もいれば、そうでない人もいることでしょう。それでも、自分の持てる全力を出し切り、ベストタイムを旨とするということで、「やりきって良かった」と思える瞬間が訪れること以外に大きな価値があるものはないようにも思います。これまでの自分の記録を追い抜こうとする、最後まで精一杯に走りきる懸命な姿に、多くの仲間が温かい声援を送り、その努力に惜しみない拍手をもって称えようとするのではないのでしょうか。それこそが、まさに「やる気」と「やりぬく力」、そして、「やさしさ」といったものが垣間見える瞬間ではないかと思うのです。特に、この3つの「や」の中で、「やりぬく力」については、人生の成功を左右する究極の力として世界的に注目されているそうです。ペンシルベニア大学の心理学者アンジェラ・ダックワースの研究チームが様々な業界で成果を出している大人や子どもを調査したところ、共通して見られたのが「やりぬく力」で、成功するには才能よりも「やりぬく力」(グリット)のほうが重要であることが科学的に証明されたそうです。この「やりぬく力」のグリット (GRIT) とは、困難なことに立ち向かう闘志【Guts (ガッツ)】、失敗してもあきらめずに続ける粘り強さ、あるいは、回復力【Resilience (レジリエンス)】、自ら目標を定めて取り組む主体性【Initiative (イニシアティブ)】、最後までやり遂げる執念【Tenacity (テナシティ)】の4つの頭文字であらわされたもので、生まれ持った才能とは全く関係なく身につけることができるものです。生徒の皆さんの中に「どうせ自分にはできない」「負けそうな勝負はしたくない」「1回うまくいかなかったらもうやらない」といった弱気な自分を見つけ出してしまう人もいることでしょう。しかしながら、嫌なことからすぐ逃げてしまう「逃げ癖」がつくと、本来自分もっている可能性を伸ばせなくなるかもしれません。生徒の皆さんには、ぜひ自分の可能性を信じて挑戦・努力し、うまくいかないことがあっても諦めず、粘り強くやりぬくことを心がけてほしいと思います。そのためには、まずは目標を自分で決めて、小さなことであっても「できた」という自信を積み重ねていくことがとても大切なことです。結果ばかりに一喜一憂することなく、自分自身が積み重ねてきた頑張りや、目標の実現に向かって過ごした実りあるその過程を大事にするべきだと思えます。望むべき結果は、いつか必ず訪れるはずですから。

